



佐川町道の駅基本計画概要 1/4

2020年8月

1 計画策定の背景と目的

計画P1～P2

道の駅を重要施策とする計画

第5次佐川町総合計画（H28～R7）

第1期地方創生総合戦略（H27～R1）

第2期地方創生総合戦略（R2～R6）

住民の意見を反映する場

道の駅検討委員会（H28～H29）

基本構想住民ワークショップ（R1）

基本計画策定委員会（R2）

事業経過

R1 計画地を選定

R2.2 基本構想策定

R2.8 基本計画策定

【整備の目的】

〈モノづくり〉 佐川産商品の販売拠点・・・地産外商の促進で生産者の所得向上と人材の育成

〈ヒトづくり〉 人と人との交流拠点・・・市、食、観による町内外の交流と憩いの場づくり

〈コトづくり〉 広域観光のPR拠点・・・町内及び仁淀川流域の広域的観光案内機能をアップ

3 地域の課題と期待する効果

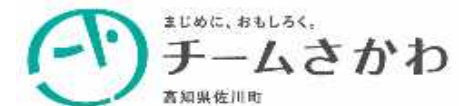
計画P15

役割の分類	モノづくり	ヒトづくり	コトづくり
地域の課題（現状）	・耕地面積や生産者の減少 ・地元産の土産店が不足	・世代間や地域間交流が減少 ・親子連れで楽しめる場所少	・町内観光は通過型が多い ・観光案内機能の充実が要
期待する効果（将来）	・所得が向上し担い手育成 ・佐川産商品を常時PR可能	・小さな拠点とのつながり増 ・公園施設等新たな憩いの場	・長時間遊べる施設となる ・町内全域への案内拠点

2 計画地

計画P3

佐川町加茂長竹地区 霧生関防災拠点
赤線内計画地（国有地及び町有地）





佐川町道の駅基本計画概要 2/4

2020年8月

4 コンセプト及び名称

計画P16～P19

【基本コンセプト】

「植物が中心にある町」

佐川町の独自性や強み（地質、牧野、林業）、計画地周辺の環境、進めてきたまちづくりの方向性、更に住民ワークショップの意見を加え、凝縮されたコンセプト「植物」を中心にみんなで道の駅を作っていきます。

道の駅の名称は、「まきのさんの道の駅・佐川」です。

CONCEPT

この町のアイデンティティ

植物が中心にある町。
草木に関心を寄せる町。
来訪者に土地のものを売るだけでなく町民の豊かな生き方を表現できる場所。
町の理念が漂う場所でありたい。
生涯学習の場として位置付ける。



※仮のデザインです

植物が中心にある町、佐川町の道の駅は、自然豊かな環境で周りを森に囲まれた、のどかでとても広い空間にあります。

また佐川町は、有名な植物学者 牧野富太郎博士のふるさとであり、植物を愛する風土が根付いています。

「まきのさん」のように自然を楽しむ人々が集う道の駅。
山も森も草花も、野菜も土も、すべては植物につながります。

【運営コンセプト】

「ごちそう佐川」

かつてエドモンドナウマン博士が訪れたことから地質学発祥の地とも呼ばれる佐川町。この町には地層のごとく、たくさんのご馳走（ちそう）が折り重なっています。馳走とはおもてなしの心。佐川ならではの「ごちそう」で皆さんを温かくもてなします。

5 ターゲット

計画P20～P21

①国道33号交通量

- ・平日昼間12時間の交通量10,867台（H27道路交通センサス）
- ・年間交通量約396万人、立寄率9%
⇒年間入込客数 約35.6万人

②車で2時間圏域の居住人口

- ・顧客マーケットは約130.5万人
- ・既存の道の駅データを基に算出
⇒年間入込客数 約43.5万人

③佐川町の人口より算出

- ・約1.3万人 ⇒約3.9万人

④その他見込

- ・観光客実績より ⇒約3.1万人
- ・おもちゃ美術館 ⇒約4.0万人

年間入込客数の目標 40万人

長時間滞在型の道の駅を目指し、佐川町民はもとより、町外も含め主にファミリー層や女性層をターゲットとします。



まじめに、おもしろく。

チームさかわ

高知県佐川町



佐川町道の駅基本計画概要 3/4

2020年8月

6 備えるべき機能と配置計画

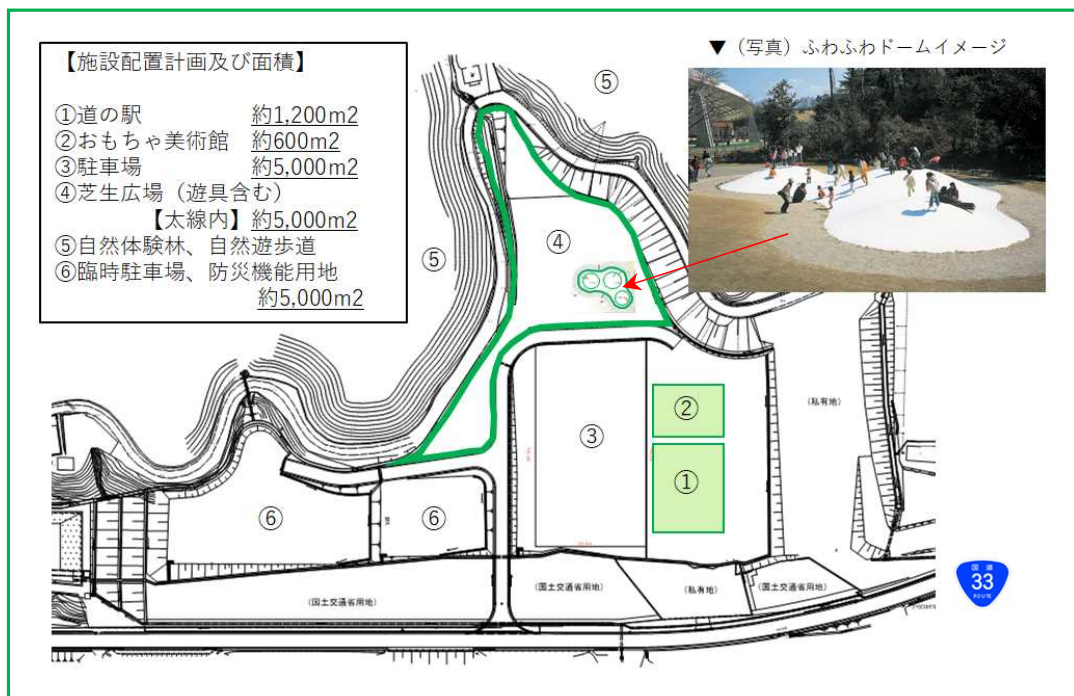
計画P22～P28

- 休憩機能** ・駐車場 ・トイレ ・休憩施設（すべて24時間対応）
- 情報発信機能** ・道路交通災害情報（24H） ・観光案内 ・地域の催し等魅力発信
- 地域連携機能** ・郷土料理等の食堂 ・産直、加工品、土産 ・体験施設 ・公園
- 防災拠点機能** ・応急時（避難所、備蓄品、非常電源） ・復旧時（広域活動拠点）

7 整備する施設・規模

計画P29～P30

機能	施設名称	規模 (㎡)
かう（市）	産直・物販・加工	約450
たべる（食）	食堂・レストラン	約350
みる（観）	観光案内・体験等	約200
管理・運営	事務所・倉庫等	約200
休憩・情報・防災	トイレ・駐車場等	—
長時間滞在型施設	おもちゃ美術館	約600
合計		約1,800



▲長門おもちゃ美術館
道の駅センザキッチンに
併設（山口県長門市）





佐川町道の駅基本計画概要 4/4

2020年8月

8 事業手法

計画P34～P36、P41

整備手法

当道の駅は施設の利益向上を目的とするものではなく、町内の生産者、事業者、町民に幅広く様々な効果をもたらす役目を担います。

生産者の所得向上、情報発信による町全体への経済波及、憩いと交流の場づくり等の役割。

⇒当駅は、**佐川町が主体的に整備**を行います。

管理運営手法

施設の整備目的に沿った町の意向を反映させることができ、また同時にコスト削減と民間ノウハウを活かすことができる手法を選定します。

高知県内の既存の道の駅では、第三セクターによる指定管理を大半が採用しています。

⇒当駅は、**町が主体となる第三セクターを設立**し、**指定管理方式**による管理運営を行います。

【組織形態】



公益的役割と収益事業を同時に担うことができる非営利法人とし、**一般財団法人**とします。

9 収支計画

計画P37～P38

整備事業費

業務・事業	施設規模 (㎡)	事業費 (千円)
設計・監理委託	一式	50,000
道の駅・おもちゃ美術館建設費	1,200	500,000
おもちゃ美術館内装工事・備品等	600	82,000
その他設備工事費	一式	100,000
整備費合計	1,800	732,000

運営収支計画

【収支共】道の駅本体	285,000千円
おもちゃ美術館	32,800千円
合計	317,800千円

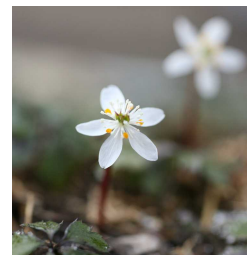
※近隣・同様の道の駅管理費・販売実績等を基に条件設定を行い算出

※おもちゃ美術館については、道の駅併設の長門市の管理費・入館者実績等を基に、条件設定を行い算出

10 事業スケジュール

計画P39

年度	事業予定
令和2年度 (2020)	<ul style="list-style-type: none"> 基本設計業務 運営組織の設立 商品開発着手
令和3年度 (2021)	<ul style="list-style-type: none"> 実施設計業務 建築工事着手 管理運営準備
令和4年度 (2022)	<ul style="list-style-type: none"> 土木建築工事 管理運営準備 道の駅オープン
令和5年度 (2023)	<ul style="list-style-type: none"> おもちゃ美術館オープン



◀**バイカオウレン** (梅花黄蓮)
牧野博士が最も愛した山野草
キンポウゲ科、常緑の多年草

